

平成25年度第1回小牧市民健康づくり推進協議会 議事録

【日 時】平成25年7月30日(火) 14時～14時55分

【場 所】保健センター 大会議室

【出席者】委員14名

後藤恒規、吉田雄一、森雅典、志水哲也、朴美子、高木康司、
舟澤敏子、田中良幸、鈴木英治、木村隆(代理久能)、安藤和憲、
伊奈慶子

事務局 9名

舟橋健康福祉部長、廣畑健康福祉部次長、江崎所長、千葉係長、
岡本係長、山中主査、森主任、桝崎主任

欠席 委員4名

木全勝彦、小川裕、小川鎮、吉田友仁

【次 第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 会長・副会長選任
- 4 会長・副会長あいさつ
- 5 議題
 - ・ 小牧市保健センター事業について
 - (1) 平成24年度小牧市民健康づくり事業実績報告について
 - (2) 平成25年度小牧市民健康づくり事業計画について
 - (3) その他
- 6 閉会

【議 事】

- 1 開会
- 2 あいさつ

(舟橋健康福祉部長)

本日は大変暑い中またお忙しい中会議にお集まりいただきありがとうございます。また、公私ともお忙しい中、小牧市民健康づくり推進協議会委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。委員が新しくなりましたが皆様の任期は2年で、平成27年3月末までとなっております。よろしくお願ひいたします。

この協議会は、市民の健康づくりを推進するため、子どもから高齢者にいたるまでの各種健診事業、健康教育や健康相談、また地区組織の育成など小牧市民の健康づくりのための方策や保健センターの運営について総合的にご審議をお願いするものです。

本日の議題については、「小牧市保健センター事業について」とさせていただきます。昨年度のこの協議会の中で報告させていただきました平成24年度の事業の実績また、今年度の事業計画についてご協議いただきたいと思いますと思っております。

健康づくり推進協議会終了後、健康づくりをすすめる具体的な計画である健康日本21小牧計画推進会議を行なわせていただきます。

昨今の健康志向の関心はますます高くなっております。保健センターで実施しております、いずれの事業につきましても、本日ご出席の委員の皆様のご協力がなければ実施できない事業ばかりでございます。

今後も保健センター事業へのご協力をお願いしまして、開会に際してのあいさつとさせていただきます。

(司会)

続きまして、本年が初回となっております。委嘱状につきましては、机の上に配布させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。委員の皆様、それぞれ自己紹介をおねがいしたいと思います。医師会長の後藤先生からお願いします。

各委員自己紹介
事務局自己紹介

3 会長・副会長選任

(司会)

会長及び副会長の選出に移ります。小牧市民健康づくり推進協議会設置要綱第6条の規定により、「会長、副会長は、委員の互選による」となっております。

それでは、委員の皆様の互選により選出させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。どなたかご推薦等ございましたらお願いします。

(委員)

会長には小牧市医師会会長の後藤先生、副会長には小牧市歯科医師会会長の高木先生が適任であると思いますがいかがでしょうか。

(司会)

ただ今委員より会長には医師会会長の後藤委員、副会長には歯科医師会長の高木委員にという発言がありましたが、いかがでしょうか。

(拍手多数)

それでは、皆様の同意をいただきましたので、会長には医師会会長の後藤委員、副会長には歯科医師会長の高木委員と決定いたしました。会長、副会長は前の席におねがいします。

ここで会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

4 会長・副会長あいさつ

(後藤会長)

皆様のご推薦により会長を務めさせていただきます後藤と申します。よろしくお願いいたします。

新聞に2012年度、寿命が非常に伸びた、平均寿命が女性は世界1位、男性は5位と書いてあり非常にめでたいことだと思いました。ただ、健康寿命というのがありまして、格差というのは男性で10年くらい、女性で13年くらいありますので、平均寿命と健康寿命を近づけて平均寿命が延びることを期待しています。

(高木副会長あいさつ)

副会長をさせていただくこととなりました歯科医師会の高木と申します。

歯科医師会は20年ほど前から8020ということで取り組んでおります。今年度小牧市では男性45名、女性51名の計96名の方が8020の表彰者でした。始まったころの平成元年の愛知県下では男性が145名女性96名の241名であったのが、平成24年度には4,756名、平成25年度では男性が2,252名女性2,859名で5,111名となっております。20本以上歯がある方は歯科だけでなく医療費が少なくてすむということで、8020をめざすことが健康づくりに寄与するということで、そういうところから発言をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(司会)

それでは議事に入らせていただきますが、会長に議事の取り回しをお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

5 議題

小牧市保健センター事業について

- (1) 平成24年度小牧市民健康づくり事業実績報告について
- (2) 平成25年度小牧市民健康づくり事業計画について
- (3) その他

(会長)

それでは議題に入ります。

議題「小牧市保健センター事業について」の(1)平成24年度小牧市民健康づくり事業実績報告について」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料1(5ページから8ページ)について説明

(会長)

事務局より説明がありましたが、今の事務局の説明に対するご意見がありましたら、お願いします。

(委員)

大腸がんの検査が13%となっていて低いのですが、私のところにも60ということでこの無料券の通知をいただきました。これがきてから手続き上何かあるんですかね。意思を自分で伝えてそれから検査に入るといいますか。

(事務局)

無料券の使える検診ですが、集団検診と昨年度から行なっています個別検診があります。集団検診でこちらで回収させていただくものについては、保健センターへお電話か窓口で申し込みをいただくと採便のキットを送らせていただいております。回収日に券と一緒に持ってきてもらう形になります。個別検診のほうは医療機関の一覧を同封させていただいておりますので、直接医療機関へ申し込みをしていただき、医療機関からキットをもらってもらい、医療機関へ提出して結果もきいてもらうという形になるので、申込みはそれぞれどちらかを選んでいただく必要があります。

(委員)

申し込みをして、もらったキットを自分で出すことによって手遅れがなくなるということですね。

(会長)

そういう通知がきてもどうしたらいいかわからないということでしょうか。それに関して誰がみてもわかるように説明は書いてあるのですか。

(事務局)

通知文の中にそういう内容は入っているのですが、細かい字になってしまうので、読むのがめんどくさいと思われるとそのままにされてしまっているのかなと思います。詳しく書かないとわからないという意見もありますし、いろいろ書くとそんなに読めないという意見もあり難しいところではありますが、検討させていただき工夫していきたいと思います。

(会長)

結果として受診率をもっと無いと仕方ないですから、なるべくわかりやすく書いていただくということをお願いします。

その他何かありますか。

(委員)

今の話の追加なんですけど、この事業は厚労省の補助事業ですか。これは年齢が決まってしまうんですよね。大腸がん検診をみると65歳だけがぬけてしまっている感じがするんですけど年齢が決まってしまうから仕方ないとは思いますが、せっかく5歳ごとでやっていて65歳がぬけてまた70歳になるとアップするという感じなんですけど。

(事務局)

一応厚労省の補助事業になっていますが、現在は市が単独で行なっています。対象年齢だけはその補助事業と同じという形です。厚労省にはしぼりがあって、印刷したりとかの経費等を勘案して補助をいただかない形で、無料の年齢は厚労省の年齢ですが、市が全て持ち出して行なっている事業です。

(委員)

好発年齢があって大腸がんなどは高齢になると高くなると思うんですけど、それで年齢とかが決まっているんですよね。

(事務局)

厚労省としては罹患率等を勘案して決めていると思います。

(会長)

結論としては65歳まで市はやるのですか、やらないのですか。

(事務局)

現在行なっている年齢で今年度も行ないます。無料の検診は60歳までです。65歳はやっていません。自己負担額は520円ですのでそれで受診していただくことはできます。

(会長)

その他何かありませんか。素朴な疑問等なんでもけっこうです。

(委員)

子宮頸がんワクチンの副作用の報告はありますか。

(事務局)

小牧市においてはきいておりません。

(会長)

その他ありますか。よろしいですか。

次に(2)の「平成25年度小牧市民健康づくり事業計画について」に移ります。説明を事務局よりお願いします。

(事務局)

資料2(9ページから 10ページ)について説明

(会長)

ただ今事務局から簡潔明瞭な説明がありましたが、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

(委員)

広域予防接種のことですが、各市町村別というのは小牧市内で接種された他市町民の方の数ということですか。

(事務局)

ちがいます。これは小牧市民が他市町で接種した数です。

(会長)

その他何かありますか。

(委員)

子宮頸がんワクチンのことなんですが、定期接種となっても積極的勧奨はしないということになっているのですが、今のところ産婦人科医会のほうからも産婦人科には積極的には使用を勧めないでほしいという意見になっています。製薬会社の話等でも世界中

で副作用はでていて、日本で現れている率とほとんど一致しているんだそうです。にもかかわらずというべきか、副作用はやむを得ないながら存在する中、アメリカ、イギリスはどんどん接種を勧めている。厚労省は非常にスロースターターというなかなか積極的に勧めない傾向があるんですが、ワクチンというものの考え方からすると行政に対してもですが、私たちの立場からするともう少し積極的に勧めていただけたらなというのが現時点での産婦人科の立場からの意見ですので、伝えさせていただきました。

(会長)

ありがとうございました。

(事務局)

小牧市は定期予防接種については、対象の時期1ヶ月ごとに予診票を送らせていただいております。ただこの子宮頸がん予防ワクチンにつきましては6年生の対象者全てに個人通知をしております。そのあとで積極的勧奨すなわち個人通知はしないようにとのことでしたので、今年度においては対象者の方にすでに通知しております。このままいくと来年度平成26年度に入ると6年生の子に通知をするのを控えさせていただくこととなります。

(会長)

ご意見ありますか。

非常に難しい問題で、テレビで手が震えるというような画面をみせられると我々個人の回答としては聞かれたときに困ってしまいますよね。ワクチンそのものとしては一定の数で副作用はあります、だから副作用があったものに対しては必ず国が死ぬまでめんどろをみるというきちんとした前提のもとでやっている。今回こういうことがあって、非常に難しい問題です。我々の力よりマスコミの力が強いなと思いました。

広域に関してですが、全体に対しての割合はどうなっていますか。1から2%くらいですか。大体でいいですが。600人ほど行なっていますが、500人くらいは11月12月の大人のインフルエンザということですよ。4月からやるといっている愛知県の広域とはどういう関係をもってくるのでしょうか。契約を結ぶとかありますよね。

(事務局)

次回8月上旬に愛知県下の広域化を県が主導で勧めていってくださって、その会議があります。今回尾張北部医療圏域内では始めるにあたっては何回も会議を重ねてきましたので、4月から始められるのかという感触ではあります。県が主導権を握って4月から始められるのだと思っています。

(会長)

他にありますか。

(委員)

20ページにあります介護予防事業の一次予防事業のところは新規事業になっているんですけど、主に筋力アップということで身体機能の改善ということだと思んですが、ぜひ栄養改善とか口腔機能の向上に関する事業とかがあって今回新規ということで筋力アップというところに注目されて一次予防として介護予防をやっつけていかなければ行けないと思うので、先々の展望というものがあればお聞かせかせいただきたいと思いますが。

(事務局)

筋力が低下することで寝たきりというか動くことが困難になり、外出もひかえ閉じこもりになり介護が必要になっていくことがあります。なので筋力アップというところに力を入れながら今までもやってきていますが、男性がなかなか参加しにくいということがありました。その中で考えましたのが、女性の中に男性が参加するとなると足が遠のくのかなということがあり、今回新しく男性向けの腰痛予防の事業を進めさせていただくという形です。

もう一点、筋力アップのためのトレーニングマシンですが、これは小針の郷に高齢者向けの筋力アップのためのトレーニングマシンが備えつけてありますので、やはりそれをうまく活用していただきながら、利用する方が自分ひとりでも筋力アップができるようにというひとつのきっかけとして、運動指導士、専門の方を定期的にこちらから派遣させていただいて、使い方の指導をさせていただいています。このようにこれからもいろいろな工夫をしながら筋力アップというようにところに投げかけていけたらいいなと思います。もちろんお口の中のことも今もやっていきますし、今後も口腔機能向上事業も進めていきたいと思っています。

(会長)

他にはありませんか。

(委員)

広域予防接種ですが、小牧の病院でどれだけやったかは把握していませんか。小牧市内の医療機関で行なわれた他市町の市民の数はわからないの。

(事務局)

医療機関から直接他市町に報告を送る場合もありますので、把握できていません。

(会長)

他に何かありますか。ないようですので、小牧市民健康づくり推進協議会を終了します。